

平成22年7月1日～2日の豪雨災害（青木村・上田市）

上田建設事務所



住宅近くの道路が土砂で埋まり、重機で取り除く作業が続いた＝3日午前9時50分、青木村田沢

同日夜に豪雨に見舞われた青木村では、土砂崩落や床上・床下浸水の被害が相次ぎ、災害対策本部を設置した村は「一夜明けた3日も対応に当たった」と、1959（昭和34）年の台風1次々規模の被害が出ている」と、原野建設社長。住民は、住宅近くに流入した土砂の除去作業などに追われた。

同日夜から村文化会館に自主的に避難している同村奈良本の70代男性は3日午後、自

豪雨被害 青木を直撃 昭和34年に次ぐ規模

同日夜に豪雨に見舞われた青木村では、土砂崩落や床上・床下浸水の被害が相次ぎ、災害対策本部を設置した村は「一夜明けた3日も対応に当たった」と、1959（昭和34）年の台風1次々規模の被害が出ている」と、原野建設社長。住民は、住宅近くに流入した土砂の除去作業などに追われた。

大雨の被害

平成22年7月4日現在

		上田市	青木村
住宅被害	床上浸水		5
	床下浸水	3	47
避難勧告		4世帯 (解除済)	3世帯 (継続中)
土砂崩落等		21	14
道路災害	国道県道	調査中	10(調査中)
	市町村道	調査中	調査中
河川災害	県管理	調査中	3(調査中)
	市町村管理	調査中	調査中
水路氾濫		2	33
農地災害			61

上田・青木で避難勧告 筑北床上・床下浸水9棟

3日の県内は夜から再び全域で雨となった。長野地方気象台は、2日午後からの大雨で地盤が緩んでいる所では、少しの雨でも土砂災害が発生する恐れがあるとして、引き続き注意を呼び掛けている。上田市は3日午後9時半に災害対策本部を設置。下室賀地区で山の斜面から崩落した土

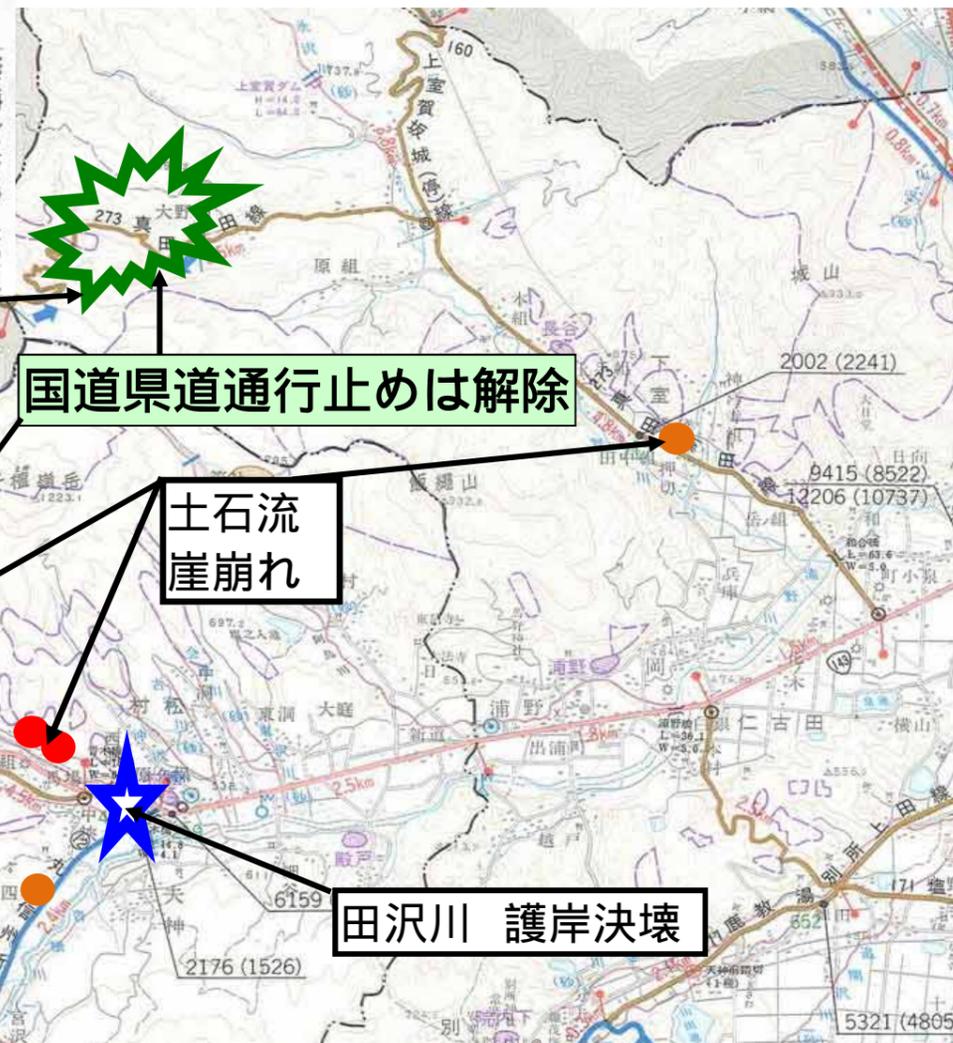
砂が集会所の壁にまで達して、付近の4世帯10人に避難勧告を出し、全員が地区内のコミュニティセンターに避難した。

【関連記事34面に】
小県郡青木村の災害対策本部は3日午前9時55分、土石流の危険があるとして同村田沢の3世帯9人に避難勧告を出し、それぞれ親類の家などに避難した。ほかに村内の一部地域に2日夜から引き続き自主避難を呼び掛けている。



道路に流れ出た土砂を取り除く住民ら＝3日午前9時45分、青木村田沢

住宅に帰れるなら帰りたいけれど、また雨が降りそうなので不安」と表情を曇らせた。一方、同村の村松と近郷にある機械加工の工場では、機械数台や工場内に水に浸かる被害があり、3日朝から従業員が総出で水をかき出した。池田三社長(59)は「自然の力なので仕方がない面もあるが、取引先への納期が間に合うか心配」と話していた。



道路通行止め
(法面崩壊
路肩決壊)

国道県道通行止めは解除

土石流
崖崩れ

田沢川 護岸決壊

国道143号は 弘法から青木峠を經由して筑北・松本方面へは現在も通行止めです。

同日夜から村文化会館に自主的に避難している同村奈良本の70代男性は3日午後、自

奈良本の3世帯4人が村文化会館に自主的に避難した。一方、東筑摩郡筑北村は3日午前8時25分、7世帯に出していた避難勧告を解除した。村によると、2日午後からの雨による浸水は床上が2棟、床下7棟。県松本建設事務所によると、同村の国道143号のうち青木峠への区間は全面通行止めが続いている。

同気象台によると、4日は低気圧の通過や梅雨前線の停滞で、県内は昼すぎから雨が降ったりやんだりの状態が続く見込み。同日午後6時までの24時間降水量は、いずれも多い所で北部、中部80ミ、南部100ミと予想している。